

臨床研究情報

当院で胃腫瘍に対する内視鏡治療を受けられた患者さん・ご家族様へご協力の
お願い

NTT 東日本関東病院消化管内科では、以下の臨床研究を実施しております。

この案内をお読みにになり、ご自身がこの研究の対象者に当たると思われる方の中で、ご質問がある場合、またはこの研究にご自身の診療記録を使用して欲しくないとのご意思がある場合は、遠慮なく下記の問い合わせ先、もしくは倫理・医療監査委員会事務局へご連絡ください。

研究課題名

Clinicopathological Features of Diminutive Gastric Neoplasms Disappearing After Biopsy:
A Retrospective Study

研究実施機関

NTT 東日本関東病院 消化管内科

研究責任者

大園 研

研究の意義と目的

胃腫瘍の中には、生検後の再検査時に病変が内視鏡的に確認できなくなることがあります。しかし、病変が見えなくなっても、病理学的には腫瘍が残っている可能性があります。本研究は、このような微小胃腫瘍において、生検後に内視鏡的に消失した病変の瘢痕部を切除した際に残存腫瘍が存在するかを明らかにし、組織型ごとの適切な治療方針・経過観察方針の検討に役立てることを目的とします。

対象となる方

2018 年 1 月から 2023 年 8 月までの間に、NTT 東日本関東病院で胃上皮性腫瘍に対する内視鏡治療を受けた方のうち、生検で腫瘍性病変と診断された後、術前内視鏡で病変が確認できなくなった方

実施方法

診療録、内視鏡画像、病理組織結果等を後方視的に調査します。対象となる病変について、患者背景（年齢、性別、Helicobacter pylori 感染の有無）、病変の部位・大きさ・肉眼型・組織型、治療方法（EMR/ESD）、偶発症の有無、切除標本における残存腫瘍の有無等を解析します。新たに患者さんへ介入を行うことはありません。

実施期間

倫理・医療監査委員会承認日 ～ 2026 年 08 月 31 日;解析終了日

個人情報の取り扱い

研究に用いる情報からは、お名前、住所などの個人を直接特定できる情報を削除し、匿名化したうえで解析を行います。研究結果を学会発表や学術論文として公表する場合も、個人が特定されることはありません。研究に関する記録・資料は適切に保管し、保管期間終了後は個人が特定できない形で廃棄します。

費用

本研究により患者さんに新たな費用負担は生じません。

利益相反

本研究に関して開示すべき利益相反はありません。

同意の撤回

本研究への情報利用を希望されない場合は、下記問い合わせ窓口までご連絡ください。可能な範囲で研究対象から除外いたします。ただし、すでに解析済み、または学会・論文等で公表済みの情報については削除できない場合があります。なお、情報利用をお断りいただいても、今後の診療に不利益が生じることはありません。

問い合わせ窓口

NTT 東日本関東病院 消化管内科 大圃 研

東京都品川区東五反田 5-9-22

電話番号 03-3448-6111（代表）